

一 般 質 問 通 告 書

令和5年1月31日

議 会 議 長 様

議席番号 2 番

議員氏名 上 田 聡

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
1. 公民館設備の 更なる充実を	日本共産党が町民を対象に行っているアンケート調査では、公民館の充実を望む声が多数寄せられている。「町政に関して、強く望むことや重視していることは何ですか」との質問に、現時点では18.3%の方が「公民館の充実」と回答している。これを踏まえて伺う。 (1) 各公民館等（高野農村センター、コミュニティセンター含む）における、以下設備の設置状況を明らかに。 なお、今後設置が予定されているものがあれば、それも併せて示されたい。 ①Wi-Fi環境 ②プロジェクター ③スクリーン ④キャスター付き長机 ⑤防音性のパーテーション ⑥ヒーター付き便座（ウォームレット） (2) 上記の他に、利用者からの設備設置に関する要望があれば、その主な把握内容を明らかに。 なお、その中に、今後設置が予定されているものがあれば、それも併せて示されたい。 (3) 住民からの要望や職員による点検等を通じて、修繕を要すると判断している箇所と修繕予定時期を施設別に明らかに。 (4) 上記のような設備設置や修繕に関しては、その内容・実施予定時期・結果を広報すぎとや町ホームページ等でより周知を図ったほうがいいのか。 (5) 修繕に係る予算は十分に確保される見通しか。	町長 副町長 教育長 社会教育課長 住民協働課長 産業振興課長 担当課長

1月31日 午前・午後 8時40分 受理

質 問 事 項	質 問 要 旨	指 定 答 弁 者
2. すべての子に その子に適した 教育を	2022年の文科省の調査によると、通常学級に在籍する公立小中学生の8.8%に発達障害の可能性があることがわかった。10年前の調査と比べて2.3ポイント増えた。小学生に限ってみると、発達障害の可能性がある児童は10.4%で、1クラスあたり3人前後いることになる。2020年度には小中高合わせて10年前の2.7倍にあたる過去最多の16万人以上が「発達障害・情緒障害通級指導教室」で通級指導を受けている。 増加理由の一つに、2005年に「発達障害者支援法」が施行されて以降、発達障害の早期発見と支援の必要性が広く認知されるようになり、教員と保護者の理解が進んだことが指摘されている。 その一方で、支援担当の教員が不足するという問題が生じており、通級指導を希望しても定員オーバーで受けられない事態や、子どもが通っている学校とは別の学校の教室に保護者が送迎するといった事態が生じている。 杉戸町でも同様の事態が生じていることを踏まえて、以下伺う。 (1) 町内小学校における2022年度と2023年度の発達障害・情緒障害通級指導教室への通級申請者（希望者）数と認定者数の各小学校別の内訳と合計を明らかに。 (2) 通級が認定されるまでのプロセスを、定員オーバーした場合も含め明らかに。 (3) 通級を希望しても認定に至らなかった保護者や児童からは、主にどのような声が届いているか。 (4) 杉戸町の発達障害・情緒障害通級指導教室は杉戸第二小学校に1教室（教員1名）だけが設置されているが、定員は13名から25名となっている。そもそも定員の上限である25名というのは、教員の負担状況など通級指導の実態に照らし適切と言えるのか。 (5) 支援担当教員の任用から育成・配置に至るまでのプロセスを明らかに。 (6) 支援担当教員の確保や増員に向けた、町のこれまでの取組と今後の取組方針は。	町長 副町長 教育長 学校教育課長